

3 1 世界的なスポーツ大会の招致・開催に対する支援について

(内閣官房、総務省、文部科学省)

【内容】

- (1) F I F Aフットサルワールドカップ2020の日本・愛知での開催を目指し、公益財団法人日本サッカー協会と愛知県が連携して行う招致活動や開催準備に対し支援すること。
- (2) ラグビーワールドカップ2019の成功に向け、開催機運の盛り上げや開催自治体の負担に対し支援すること。
- (3) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催効果が地方に十分波及するよう、競技招致や合宿誘致、地方の製品の活用・PRに対し支援すること。

(背景)

- 国際スポーツ大会の開催には、スポーツの普及はもとよりスポーツを通じた青少年の健全育成や国際交流の拡大、地域情報の発信など地域振興に幅広い効果がある。また、こうした効果は、開催地のみならず広く全国に及ぶため、国としてもしっかりと支援すべきと考えている。
- 2020年のフットサルワールドカップは、(公財)日本サッカー協会が、平成28年5月に日本・愛知を開催地として立候補し、8月には「招致及び開催に関する最終書類」をFIFAに提出しており、現在、FIFAにおいて審査が行われているところである。
招致実現に向けては、開催資金の確保、大会の開催機運の醸成などについて、国による積極的な支援が必要である。
- ラグビーワールドカップ2019は、海外から40万人の観戦客が訪れ、日本各地に長期滞在すると見込まれるなど、その効果は開催都市に限らず全国に及ぶ。このため、オールジャパンで開催機運を盛り上げ、大会を成功させることが求められるが、開催都市には開催都市分担金の負担のほか、スタジアム改修等が求められることから、国による積極的な支援が必要である。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催については、開催のインパクトを全国に波及させ、日本全体で盛り上げるため、各自治体が競技招致や合宿誘致、賞品等への各地の製品の活用に向けて取り組んでいる。

このうち、競技招致や製品の活用及びPRについては、組織委員会の判断によるところが大きいため、国から組織委員会に対し、支援を働きかける必要がある。

また、合宿誘致にあたっては、海外チームへの情報提供や施設の改修などについて、国による積極的な支援が必要である。

(参 考)

◇FIFAフットサルワールドカップ2020の概要

- 1 主催：国際サッカー連盟（FIFA）
- 2 開催予定時期・期間：2020年9月12日～10月4日（23日間）
- 3 会場数：3～6会場（愛知県内）
- 4 参加国・地域：24か国・地域
- 5 試合数：52試合

◇ラグビーワールドカップ2019の概要

- 1 主催：ワールドラグビー（World Rugby）
- 2 開催予定時期・期間：2019年9月20日～11月2日（44日間）
- 3 開催都市：愛知県・豊田市、札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、静岡県、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県（計12都市）
- 4 参加チーム：20か国・地域
- 5 試合数：48試合

◇愛知県における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に係る取組

- 1 競技の招致
サッカー（豊田スタジアム）
- 2 合宿の誘致
 - ・市町と共に以下の取組により誘致活動を実施
競技団体・日本オリンピック委員会等へのPR、キャンプ候補地PR
冊子の作成、競技団体等の視察時の通訳や視察バスの手配 等
- 3 製品の活用
 - ・ビクトリーブーケに渥美菊（スプレーマムなど）を提案（田原市）